

編集後記

科学者は不可知論をとってはいけないと言われている。しかし最近の経済情勢の目まぐるしい変動を見ていると、ある一定の理論を普遍妥当的なものとして固執する気にはなれなくなる。

たとえば、本研究所の研究テーマと関連があるわが国の産業構造の変動についてもそうである。貿易理論の教えるところによると、わが国の産業構造は明治以来、原材料から最終製品にいたる全工程を自国で生産するワンセット的、垂直的な構造をとってきたので、最近の比較優位を強調する先進国間の水平貿易的な産業構造に変革すべきである、とくに中進国の追上げや円高などによって、造船などの構造的な不況業種は早い機会に新しい産業に転換すべきだ、とされたのはそう古い話ではない。

しかし第2次オイル・ショックを契機として円安傾向から造船業が息を吹きかえしたり、原油の値上りのショックを、多種類の産業が存在することによって吸収できるワンセット的な産業構造もそう見捨てたものではないという議論も出てきた。わが国にワンセット的な産業構造が存在するのは、海外市場とかなりの距離があり、しかも膨大な人口を擁するわが国市場の歴史的特性でもあり、ある程度当然だともいえる。

不可知論だと非難されるかも知れないが、現状と学問に対する謙虚な気持を持ちたいものである。(1980. 3.)

速水 保

流通問題研究

No. 1

1980年9月1日発行

発行 流通経済大学産業経済研究所

〒301 茨城県竜ヶ崎市字平畑120番地

Tel (02976) 2-3251

製作 株式会社 桐原書店

〒166 東京都杉並区阿佐谷南3-4-22

Tel (03) 392-5121

(非売品)
